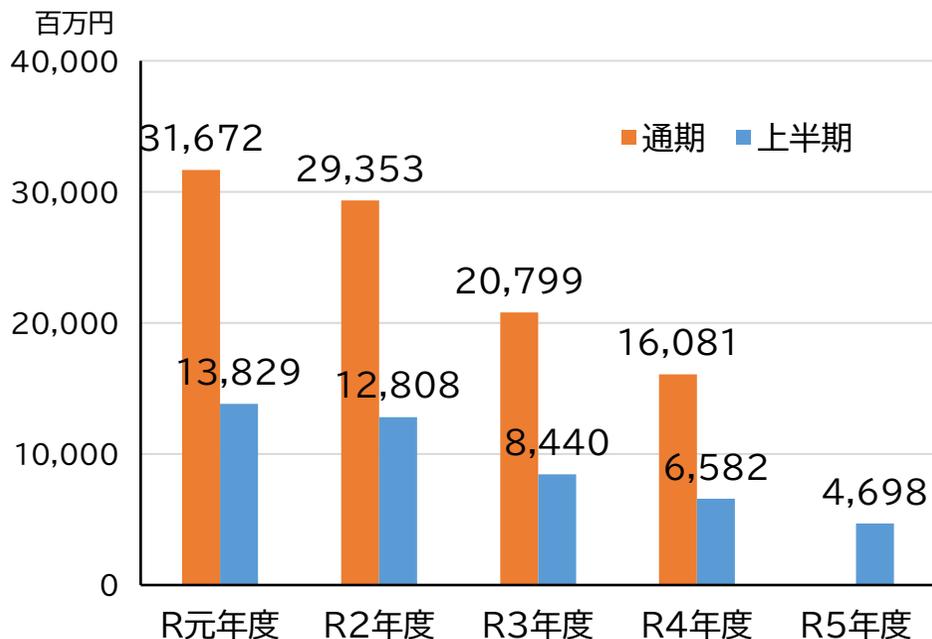


## 令和5年度上半期の林業信用保証実績の概況

# 1 保証引受

- 令和5年度上半期(4～9月)の保証引受は、47.0億円(前年同期比71.4%)であり、この5年間を見ると、令和元年度をピークに減少傾向にある。
- 保証引受額が前年同期と比較して減少したのは、①木材価格がウッドショックによる上昇後、下落傾向にあるものの、依然として高い水準で推移している中、被保証者の資金繰りが改善し完済に至ったものがあること、②経営悪化により保証の更新ができず期日延長したものがあることが主要因と考えられる。
- 今後も、資金を必要とする林業者等に、適切に信用保証サービスが提供できるよう、積極的な制度普及に部門一体となって取り組んでいく。

<保証引受金額の推移>



<保証引受減少の要因>

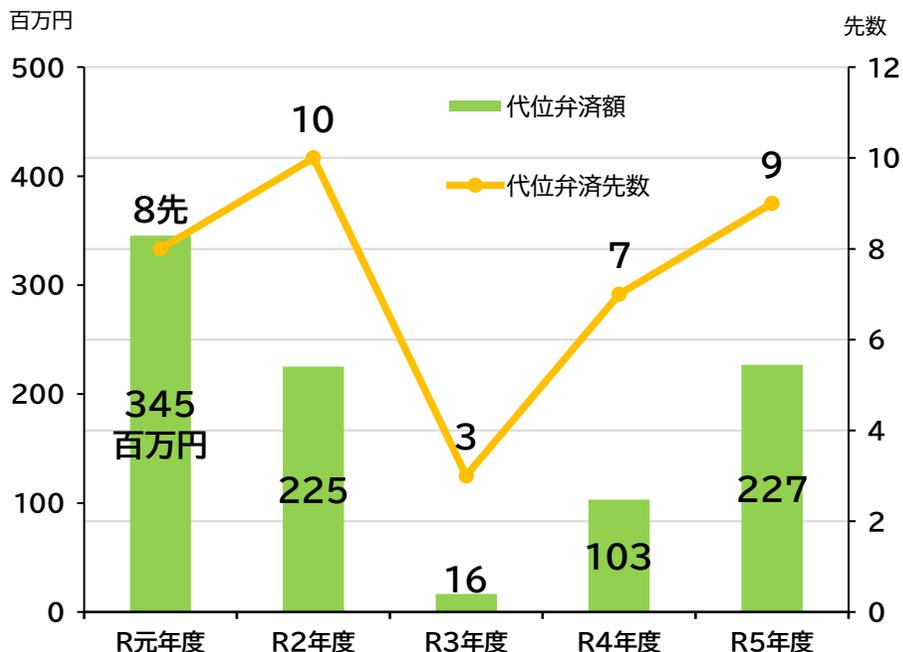
(単位:億円)

	金額	構成比
資金繰りが改善し完済に至った案件	15	79%
経営悪化により保証の更新ができず期日延長した案件	4	21%
合計	19	100%

## 2 代位弁済

- 令和5年度上半期の代位弁済は、227百万円(前年同期比220.4%)、先数は9先(前年同期比114.3%)となった。
- 代位弁済が増加したのは、日銀短観の業況判断(木材・木製品の中小企業DI)で大幅なマイナスが続いている状況(6月期△24%ポイント→9月期△14%ポイント)の下で、燃料費高騰、人手不足、価格転嫁が進まないなどの理由により、資金繰りが悪化する事業者が依然として見られることが主要因と考えられる。
- このままの状況で推移した場合、代位弁済は増加することが見込まれることから、状況を注視するとともに、期中管理等を適切に行い、林業者等が事業継続できるよう、融資機関と連携し、条件変更等に柔軟に対応していく。

<代位弁済(金額・先数)の推移>



※各年度とも、上半期(4~9月)実績を計上。

<代位弁済事由の内訳(先数)> ※各年度とも、上半期(4~9月)実績を計上。

	経営不振	うちコロナ関連保証利用先	人手不足による売上減	経営者の死亡・体調不良	他社倒産の余波	合計
R5年度	7	3	0	1	1	9

<中小企業の業況判断指数(DI)の推移>

	2023年		
	3月	6月	9月
全企業	3	5	5
木材・木製品	▲15	▲24	▲14

注:1 日銀短観(日本銀行の全国企業短期経済観測調査/2023年12月公表)より作成

2 DIとは、「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものである。

<倒産の状況>

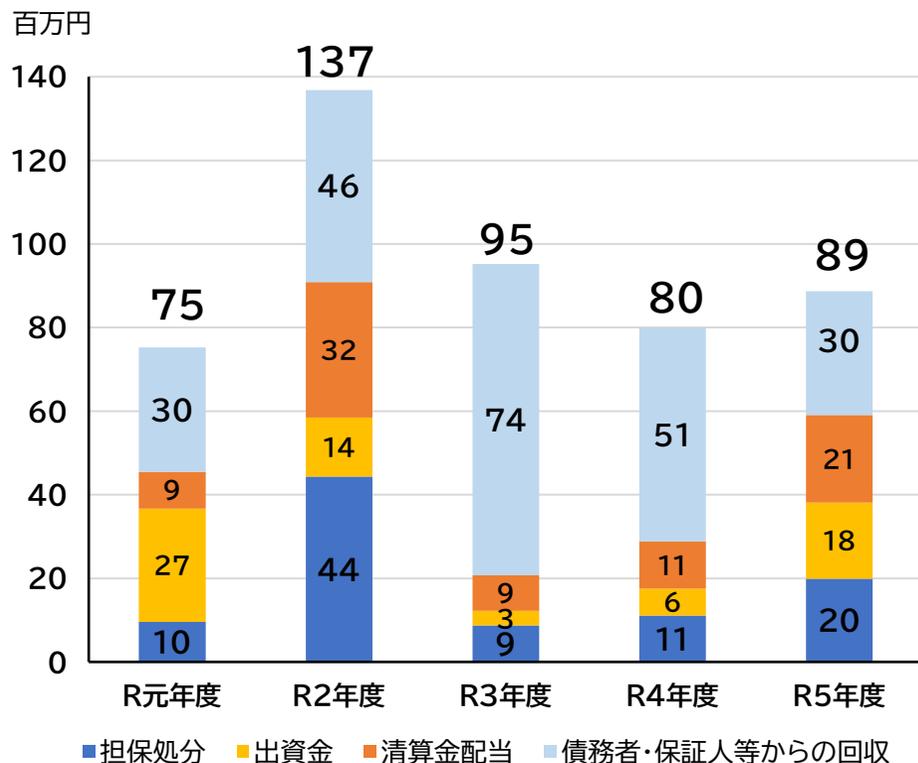
	2023年		
	1-3月	4-6月	7-9月
全企業	1,956	2,086	2,238
木材・木製品	8	8	5

注:株式会社東京商工リサーチ「倒産月報」より作成

# 3 回収金

- 令和5年度上半期の回収金は、89百万円(前年同期比110.9%)となった。ここ数年は、代位弁済額が低位で、求償権残高・先数も減少傾向であったことに伴い、回収金も減少傾向であったが、令和5年度上半期は代位弁済及び求償権残高・先数が増加に転じたことから、回収金も増加となった。
- 回収金の内訳をみると、年度によってばらつきが見られるものの、債務者・保証人からの回収が最も多く、これらの者の資力等に左右されるところが大きいと言える。

<回収金の推移>



※各年度とも、上半期(4~9月)実績を計上。

<求償権残高・先数の推移>

